脱施設化ガイドライン案への世界のコメント（2022年6月）　No.103

**ステファン・ヴィエト**[[1]](#footnote-1)**（ブルガリア）**

**文書提出**

Written submission

From Stefan Viet

この声明は、自立専門家ネットワーク（Network of Independent Experts – NIE。ブルガリアに拠点を置くNGO）に文書として提供されたものです。これは、ヴァリディティ財団(Validity Foundation)の支援を受け、NIEが翻訳したものです。この声明には、編集上の変更（翻訳を除く）は一切ありません。

自然界にも私たちの社会にも、従わなければならない多くの行動規範があり、それによってバランスと平等が保たれています。

人（人間、個人）には選択する権利があるはずで、その選択こそがまさに私たちを人間にしています。

次の状況はどうでしょう。

「選ぶ権利が**ない**ところでの生活。いつ何を食べるか、どこで買い物をするか、いつ寝るか、いつ楽しいことをするか、いつ友人と出かけるか、などなど、誰かがあなたの代わりに選んでいる。これらは、誰にでもできる基本的な決定事項です。すべてデフォルトとして自分自身で行うべきものです。」

残念ながら、ある種の人々、つまり施設で暮らす障害のある人は、必ず選択と結びついているこの自由を享受できないのです。

私たちは皆、「障害者権利条約」を知っています。この条約では、障害のある人は自立して生活し、地域社会の一員となる権利を有するとされており、ヨーロッパのすべての国が参加しています。私たちは、脱施設化（DI）とは、施設に収容された人々にこれらの権利をもたらすツール・方法であることを承知しています。

ブルガリアにはDIが存在しません。だから、多くの人が間違った、不健康な方法で暮らし続けているのです（身体的にも心理的にも）。

私はそのような施設の中で育ちました。そして、脱施設化しました。

私のライフストーリーを少し紹介し、あなたに分かっていただきましょう。

私がこのような施設で暮らすことになったのは、一連の悪い障壁と、私の両親が抱えていた悪い資産状態のせいです。巨大な建物の中で、身体的および精神的な障害のある多くの子どもと一緒に暮らすことになりました。この衝撃を受けなければならなくなったのは、私が8～9歳のときでした。私は、これが一時的なものであることを願いながら生きていましたが、そうではありませんでした。私はその後8年間、この建物の中で、この子どもたちと一緒に過ごしました。私は彼らと同じ建物で寝、食べ、勉強しました。私と同じような運命をたどった人たちがたくさんいて、まさにそのおかげで、私はこの素晴らしい人たちや友人たちと出会うことができたのであり、彼らは今でも私の友人です。お互いに育て合ったと言えるでしょう。でも、食べ物も、人も、この建物での生活も、私が選んだわけではありません。

こうして、こういう環境の中で生活しながら、初等教育を無事に終えたのです。もちろん、前述から想像できるように、この先、何を勉強するかという選択肢はありませんでした。町には障害児のための専門高校（農業経済高校）が1校しかなく、この施設の子どもたちはみんなそこに通わされていたのです。私はそこで勉強するのは嫌だ、美術の勉強をしたい、と前向きに考えていました。幸いなことに、人生はいつか笑顔にさせてくれます。だから、最近の「脱施設化」が葛藤や不満を抱えながらもやってきたとき、もちろん外部の人たちの支援もあって、自分で選択することができたのです。

私は他の若者や人々と一緒に別の建物に移りました。そこは小規模なビルで、職員も住人もかなり少なかったです。しかし、私は成功しました。自分の意思で選択し、芸術を学ぶ希望を追求しました。環境は同じようなものだったのですが、どこか違いました。繰り返しになりますが、私はラッキーでした。そこには私のことを心配してくれる人が管理していたからです。施設でありながら、施設であることを感じさせず、必要な配慮やケア、教育を受けていたのです。しかし、経営者が変わり、脱施設化された環境は「施設」に戻ってしまいました。またしても、自分で選択しようと願うと新たな障壁が目の前に立ちはだかりました。しかし、それがそのシステムから抜け出そうという意欲をさらに高めてくれました。高校卒業後、私は大学へ進学することにしました。施設以外でも生活しやすいようにと、すべてのことを自分で行いました。今、私は大学生として成功し、自分の意見を自由に言い、自分で選択し、失敗し、そこから学ぶことができるようになりました。私は働き、旅行し、新しい友人関係や人間関係を築いています。

私が言いたいことは何でしょうか？自分を成長させ、向上させる手助けをしてくれる施設はあるかもしれません。しかし、それには適切な人材、人に共感できる人材が必要です。このような環境で働き、ブルガリアの未来を育てることに誇りを持てる人たちです。

何が必要なのでしょうか？

1. これらの施設をビジネスビルのように普及させないこと；

2. このような施設を作る場合、管理者を慎重に選べること。この人物は、優れた人間性、共感性、連帯感を持っていなければならない；

3. 経営者の親族や友人で構成される人材の雇用を排除すること。そして、ふさわしい人選をすること；

4. 入居者は自由な表現権を持つべきであること；

5. 入居者が選択できるようにし、担当者はそれをサポートし、望ましい選択ができるように導くこと；

6. 施設を退所した後も、障害のある人を正当に指導・支援すること。これはどういうことか？

- 必要なのは、施設の外での生活に対する意識を高めることです。いわゆる「ソフトスキル」（訳注　対人関係技能）の訓練が必要なのです。また、自分に合った大学へ進学するためのガイドも必要です。また、自分自身で管理できる、そのニーズに合わせて働いてくれるパーソナルアシスタントが必要です；

7. 学校、施設など、利用しやすい場所があること。

ソフィア市、　2022年6月13日

**注： 本投稿で提示された見解はステファンのものであり、ステファンが意見募集プロセスに参加することを可能にした団体の意見を必ずしも反映するものではありません。**

（翻訳：佐藤久夫、岡本 明）

1. 著者は障害のある人． [↑](#footnote-ref-1)